

***** セルラス物語 エピソード 9 *****

～長女の人との付き合い方が不安でたまらなかった～

日頃、家での弟とのやりとりを見ていると、喧嘩ばかりで思いやりがなく、学校でもお友達にこんな態度をとっているのかしら？
これではお友達から嫌がられているんじゃないかしら？
と不安でたまりませんでした。

セルラスの活動を始めて、ここには他の親子や、大人も色々な年齢がいるし、子供が自分の親や先生以外の大人と接することができることも魅力の一つだと思いました。
しかも皆さん自分のお子さん以外の子どものことも気にしてくださって、それぞれの子どもの特性も理解しようとしてくれるので、親には見えてこない我が子の良いところを、他の親御さんから教えてもらったりできるのです。

ある日セルラスのイベント参加のために、長時間電車に乗った時のことです。

私はその日別の用事があったため、参加予定のお母さんに娘も一緒に連れていってくれるようお願いしました。

するとお母さんが

「〇〇ちゃん、すごかったよ！自分より年下の子供たちに絵本を読み聞かせして、電車で静かにできるように動いてくれたのよ。本当に助かったわ。」

と帰ってきた後、話してくれました。

本人には弟しかいないので、同性の年下の子は妹みたいで面倒をみてあげよう、と責任感を持っていたようです。

思いやりがちゃんと育っているとうれしく思いました。

また、私の気持ちの面でも助けられています。

普段、親子で他の親子と接するときには子供の言動に注意しないといけないときが多々あります。

『子供のため』というより『世間体・他の親がどう感じるか』という理由で
きつく言ってしまう時があります。

でも、同じピアザの人たちはまるで家族のような関係ができていますので、
本当にその子のためだと思ふことをきちんとしかってくださったりするので、
本当に大事なことが何なのかそれを聞いて自分も気付かされることが
あります。

親子だけでは感情的になったりしがちですが、なぜいけないことも
第三者に言われることで冷静に理解できます。

そしてほめる時は、親以上に真剣に褒めてくれる仲間の存在は、親として
とても心強く、みんなで子供の成長を見てくれているって感じられます。

多言語という部分だけでなく、家庭だけではできないことが、ここで
いろんな人と関わることによって、しっかり育てられる実感を持っています。

